市民が選んだ

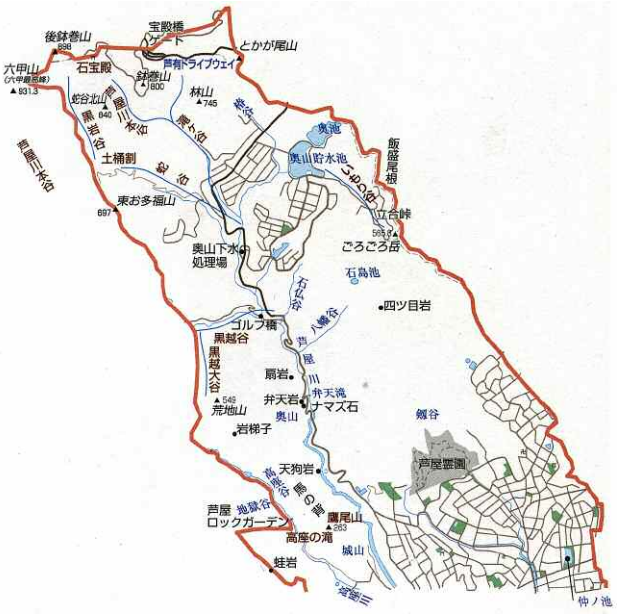
芦屋の未来遺産

～ 芦屋文化の 100 年リレー ～

発行：芦屋ユネスコ協会／協力：芦屋市・芦屋市教育委員会

2019 年撮影（芦屋市提供）

芦屋未来遺産運動推進委員会



私たちの住んでいる芦屋市は、自然遺産・歴史遺産・景観など、未来へ伝えていきたい多くの文化遺産を抱える宝石のようなまちです。

芦屋未来遺産運動推進委員会では、現在を生きる私たちが100年後の子どもたちにそんな宝物を残したいと願い、「芦屋文化の100年リレー」をスタートしました。

この冊子ですべてをご紹介することはできませんが、リレーのバトンをお渡しします。

先人からの宝物を大切に記憶し、皆さんがおとなになったときには、次世代へとバトンをつないでいただきたいと願っています。

1 芦屋川の源流

芦屋川の源流は、後鉢巻山(芦屋市最高地点・898.6m)の手前、白山石宝殿の祠を下ったあたりだといわれています。

六甲の山々は、寒暖の差に弱い花崗岩(御影石)でできています。芦屋川は急峻な川で、流れも速く、大雨のたびに巨石を含む土砂を押し流し続けてきました。

この堆積でできた土地が、私たちが住んでいる芦屋となっています。

2 東おたふく山

六甲山系の一部から成り立っている芦屋の山地は、六甲変動の中で生まれました。後鉢巻山、蛇谷北山、鉢巻山、荒地山、城山、奥池、ゴロゴロ岳など、市街地から見るとせり上がるような山の姿ですが、東おたふく山はなだらかな草原が広がっています。

ハイキングを楽しむ人、またロックガーデンへ行く人などが東おたふく山を利用しています。

3 奥池と猿丸安時

江戸時代、芦屋の村々は日照りが続くと田畑の水不足に悩み、水争いが絶えませんでした。そこで、当時、芦屋村の年寄であった猿丸又左衛門安時(1804~1879年)は、天保12年(1841)から元治2年(1865)までの約20年の歳月をかけて、奥池をつくりました。

今では、周囲に自然の恵み豊かな遊歩道が整備され、人々が散策を楽しむ姿もみられます。

4 ゴロゴロ岳

ゴロゴロ岳という名はどこから来たのでしょうか？　岩がごろごろしているとか、雷が多いところとか、標高が565.6mだからと諸説ありますが、はっきりはわかりません。今はありませんが、ここにはかつて「人間灯台」といわれる旧神戸営林署剱谷気象観測所がありました。

38年間もここに住み込み、観測を続けた人がいたのです。

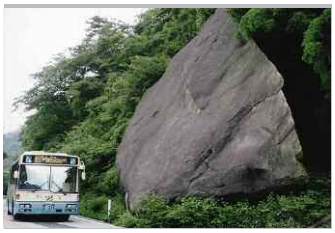
5 ナウマンゾウの臼歯化石

ナウマンゾウの化石は、昭和36年(1961)、芦有道路の建設工事中に、奥山石釜谷の芦屋ゲート付近(標高約320m)で出土しました。大阪市立自然史博物館によって、3～10万年ぐらい前のナウマンゾウの右下顎の第三真臼歯(乳歯)と鑑定されています。

この化石は、現在、芦屋市立美術博物館に保管され、たびたび展示されています。

6 フカキリ岩・弁天岩

昔、干ばつに困った村人によって、雨乞いの儀式が行われていた岩です。フカキリ岩で切ったフカの血を弁天岩に塗りつけることで、けがれを嫌う水神が大雨をふらして洗い流すと信じられていたようです。



江戸時代の末期にも、行者によってここで雨乞いの儀式が行われたと、伝えられています。

7 城山（鷹尾山）

鷹尾山は通称「城山」と呼ばれ、弥生時代中期から後期(今から約2000年前)の土器が出土しました。

また、山頂一帯は鷹尾城跡でもあります。鷹尾城は、細川高国方の国侍、摂津豊島地方の豪族である瓦林政頼が16世紀前半に築いた中世山城で、永正8年(1511)には、鷹尾城をめぐって、細川高国方と細川澄元方の軍勢が戦いました。

8 会下山遺跡

昭和29年(1954)に発見された弥生時代中期～後期(紀元前2世紀～紀元1世紀)の高地性集落跡。昭和31～36年(1956～1961)に発掘調査を実施。平成23年(2011)2月7日、国指定史跡に指定されました。

遺跡は山全体に広がり、竪穴住居跡や祭場跡、火たき場跡、堀跡、墓跡等があります。標高200mからの眺望は大変良く、遠くの地域まで見渡せます。

9 天然プール

山芦屋町や近隣の人たちは、山芦屋公園の北側にある芦屋川の堰堤を、愛着を込めて「天然プール」と呼んで、長らく親しんできました。芦屋川の堰堤は、昭和13年(1938)に起きた阪神大水害の後、芦屋川の中流域にいくつも設けられました。急峻な芦屋川の流れは、ひとたび雨が降ると一気に増水するため、現在では立ち入り禁止区域になっています。

10 旭塚古墳

昭和36年(1961)に発見され、京都大学考古学研究室により発掘調査が行われました。その後、平成19年(2007)に芦屋市教育委員会が再び発掘調査を実施、7世紀中頃に造られた古墳であることがわかりました。横穴式石室の大きさは、全長9.8m、玄室の長さ4.1m・幅2.1m、羨道の長さ5.7m・幅1.6mでした。

調査後、石室は地中に埋め保存、山芦屋遺跡緑地として整備されています。

芦屋川の文化的景観

平成24年(2012)4月1日に「芦屋川の文化的景観」という名称で、芦屋川を芦屋市指定文化財に指定しました。芦屋川の文化的景観は、六甲山地を背にする芦屋川がもたらす水の恩恵と水害の脅威が交錯して作られたもので、天井川と扇状地に適応して発展してきた芦屋市の成り立ちを示しています。

流域には、国指定重要文化財ヨドコウ迎賓館をはじめ、数多くの文化財があり、芦屋川の文化的景観の一部を形成しています。

11 ヨドコウ迎賓館

大正13年(1924)、灘の酒造家8代目・山邑太左衛門が建てた別邸で、国指定重要文化財です。昭和22年(1947)には株式会社淀川製鋼所の所有となり、ヨドコウ迎賓館として公開されています。また、近代建築の巨匠であるフランク・ロイド・ライトの設計であることから世界的に有名で、将来、世界遺産に登録される可能性がある貴重な建物です。

12 高座川・高座の滝

高座川は、城山・荒地山とロックガーデンの谷筋を流れ、高さ10mの高座の滝を形成しています。

滝は雌滝と雄滝がありますが、雄滝の横はロックガーデンの登山口となっていて、岩肌にはロッククライミングの父・藤木九三のレリーフがはめ込まれています。

さらに谷筋を下った川は、開森橋の北側あたりで芦屋川に合流しています。

13 荒地山

芦屋と神戸の境にある荒地山は、石宝殿に祀られている山の神(権現さま)の住まいだといわれていました。そのため、六甲山中で悪事をはたらくと、この荒地山に迷い込んで神罰を受けると言い伝えられてきました。そうした民話が「七右衛門ぐらのたたり」です。

そのお話から、この岩場を「七右衛門ぐら」と呼ぶようになったと言われています。

14 三条八幡神社

三条八幡神社の境内には、日向佐土原藩(宮崎県)の島津忠興が用いた刻印のある手水鉢や、国旗掲揚台の石柱などが移設されています。

また、塩通山法恩寺(報恩寺)跡にあった兵庫県指定天然記念物(昭和9年〔1934〕に指定)「六甲くろがねもち」の巨樹(昭和33年〔1958〕枯死したために指定解除)の後には孫の木が植えられています。

15 芦屋廃寺跡

芦屋廃寺は、飛鳥・白鳳文化期(7世紀)に建立された昔のお寺です。当時のお寺の名前が史料に残っていないので、「芦屋廃寺」と呼ばれています。なお、元禄5年(1692)の『寺社御改委細帳』には行基が開いたと伝える塩通山法恩寺という寺院名があり、在原業平の修復を受けたこと、嘉吉2年(1442)兵火のため焼失し、その跡に薬師堂を建てたと伝えています。

16 猿丸安時頌徳碑

奥池を造り、芦屋の村々を水飢饉から救ったという猿丸又左衛門安時(1804～1879年)を称えるため、大正５年(1916)に建立されました。

江戸時代、芦屋の村々は日照りが続くと田畑の水不足に悩み、水争いが絶えませんでした。

そこで、当時、芦屋村の年寄であった猿丸又左衛門安時は、約20年の歳月をかけて奥池を造りました。

17 「細雪」の碑

この文学碑は、昭和61年(1986)、谷崎潤一郎生誕100年を記念して、谷崎潤一郎「細雪」文学碑建立実行委員会(委員長・辻本勇)らによって建てられました。前面には、谷崎松子夫人による「細雪」の二文字、裏面には、昭和13年(1938)に起きた「阪神風水害」で、阪急芦屋川周辺の洪水の様子を描いた小説『細雪』の一節が刻まれています。

18 芦屋霊園

芦屋霊園は、国際文化住宅都市にふさわしい、明るい公園墓地をめざして、剱谷国有林の土地を借り、昭和27年(1952)から造成・供用が始まりました。

園内には、サクラや市花コバノミツバツツジなどの花や木々が植樹されているほか、芝生の広場や水路、散策路が整備されています。

また、展望台からは芦屋のまち並みや大阪湾が一望できます。

19 芦屋神社

芦屋神社の境内には、歌人としても知られる猿丸太夫の墓と伝えられる石塔があります。造られた時代は鎌倉時代と考えられ、猿丸太夫の活躍した時代から400～500年も後のものです。

また境内には６世紀ごろの横穴式石室墳があり、ここに芦屋川上流の弁天岩に祀られていた水神が移され、「水神社」の石碑が建てられています。

20 岩園緑地・六麓荘西緑地

岩園町周辺は、市内でも一番自然の残っているところです。その昔、芦屋にどのような樹木が茂っていたのかを知るためには、人の手が入らないままに残された森林などが大切な手掛かりになります。

平成20年(2008)に、市にそんな森林が２カ所寄贈されました。

翌年には保護樹林として整備され、岩園緑地・六麓荘西緑地として公開されています。

21 六麓荘住宅地

六麓荘住宅地は、株式会社六麓荘が昭和４年から６年(1929～1931)にかけ造られました。「六麓荘」の名称は、「風光明媚な六甲山の麓にある別荘地」にちなんだものです。当時としては珍しく、道路の全面舗装、上・下水道、都市ガスも整備され、電力・電話線も地下に埋設されました。六麓荘緑地の一角には、「六麓荘」と力強く彫られた石碑が今も残っています。

22 岩園天神社

芦屋から西宮苦楽園方面に抜ける岩園隧道の北西200ｍほどの所に、こんもりとした森があります。岩園地区の鎮守の社である岩園天神の森です。

境内の南西角に６世紀ごろの古墳の石室があり、その上に花崗岩に彫られた役小角の像が建っています。古くから、土地の人々は“行者さん”と呼び、お宮さんとともに大切に信仰されています。

23 朝日ケ丘縄文遺跡

昭和39年(1964)、道路工事によって発見された縄文時代前期(今から約6000年前)の遺跡です。

遺跡の範囲内にある朝日ケ丘集会所内には、出土した縄文土器と石器の一部が展示されています。

集会所南側の屋外には、芦屋市域の地形を縮尺１／300で表した、主な遺跡の位置を示している「芦屋市遺跡触覚模型」が設置されています。

24 岩ケ平公園

昭和36年(1961)に開園の岩ヶ平公園は、多くの桜の木が植えられ、春には公園中が 桜でいっぱいになります。その東側には、アメリカのモンテベロ市との姉妹都市提携を記念したバラ園があり(昭和48年〔1973〕開設)、５月には約260株のバラが咲き誇ります。ひっそりと住宅地の中にあるこの公園も、桜の季節には知る人ぞ知る名所となっています。

25 仲ノ池

仲ノ池は、もともと江戸時代に芦屋の田畑に水を流すための灌漑用水として造られた池です。

その後いろいろな経緯を経て、現在は「仲ノ池緑地公園」として、市民の憩いの場となっています。

そのため、池の周囲の植物や池の生き物も昔とはまったく変わってしまいましたが、現在も自然観察会が開催されるなど、市民に親しまれています。

26 阿保親王塚

古墳時代前期(４世紀)の古墳が確認されています。現在の姿に改修したのは阿保親王の子孫である長州藩の毛利氏ですが、江戸時代の地誌『摂津志』(享保20年〔1735〕)等には「阿保親王墓」の名が見え、ここが平安時代の皇族である阿保親王(792～842年)の墓と認識していたようです。

しかしながら、古墳の年代とまったく合わず、阿保親王とは関係がないことがわかります。

27 高浜三代句碑

昭和55年(1980)、芦屋観光協会創立30周年記念事業として、月若公園内に建てられました。

月若公園の近くには、かつて俳人・高浜年尾が住んだ家があり、俳誌「ホトトギス」ゆかりの地でした。

碑文には、「咲きみちてこぼるる花もなかりけり」(虚子)、「六甲の端山に遊び春隣」(年尾)、「目に慣れし花の明るさつづきをり」(稲畑汀子)と三代の句が刻まれています。

28 業平・公光の祠

在原業平（825～880年）は、平安時代の貴族で、平城天皇の孫、阿保親王の五男にあたります。

また、六歌仙・三十六歌仙の一人であり、歌人としてもよく知られています。

『伊勢物語』を愛し業平を尊敬する若者・公光の物語としては、謡曲『雲林院』があり、この祠もその謡曲にちなんで建てられ、地元の人々によって今もたいせつに守られています。

29 業平の歌碑（松ノ内緑地）

歌碑には、業平の「世の中に　たえて桜のなかりせば　春の心は　のどけからまし」の歌が刻まれています。松ノ内緑地は、阪神・淡路大震災の復興事業として、平成11年(1999)、崇信幼稚園の跡地に整備され、緑地内にこの歌碑が建てられました。

昔の図絵等に、業平屋敷跡が市民センター辺りにあったとされており、ここに決められました。

30 芦屋川トンネル

現在、ＪＲ東海道本線が芦屋川をくぐり抜ける場所には、かつて煉瓦で築かれた芦屋川トンネルがありました。このトンネルは、明治７年(1874)５月に建設された天井川トンネルで、日本で初めて“トンネル”という名称が使われたことが、当時のイギリスの新聞で紹介されました。その後、大正9年(1920)に解体、芦屋川跨線水路橋に改築されて、現在に至っています。

31 芦屋仏教会館

丸紅商店初代社長・伊藤長兵衛氏が、昭和２年(1927)に私財を投じ創設しました。近代建築に東洋風・インド風の細部意匠を取り入れたデザインが特徴的な建物です。終戦直後には、一部が市立図書館としても使われました。創設以来90年以上の歴史を歩みながら、地域社会に根差した活動が行われています。国登録有形文化財。景観重要建造物にも指定。

32 日吉神社石祠

日吉神社本殿南東側の浮島内にある石造物です。芦屋市指定文化財。高さ58㎝・幅51㎝の花崗岩製で、屋根の四面には文字や記号、正面には永正17年(1520)の文字が彫られており、市内に現存する最古の金石文です。

16世紀には、津知村がすでに成立していたことを示している証の石祠と言えます。

33 カトリック芦屋教会

昭和31年(1956)に建てられたこの教会は、鐘楼が収められた高い尖塔、正面のステンドグラス、聖堂入口に続く大階段が印象的な、ゴシック風の建築です。

芦屋川のランドマークとして市民に親しまれている建造物として、平成30年(2018)10月10日、芦屋市景観重要建造物に指定されました。

34 芦屋警察署

現在の芦屋警察署は、平成13年(2001)竣工。旧庁舎の南東角にあった正面玄関が部分的に保存されています。旧庁舎は、昭和２年(1927)に完成。

兵庫県営繕課の設計で、鉄筋コンクリート造３階建てでした。旧正面玄関は花崗岩で造られており、アーチの要石には夜間警備の象徴としてミミズクが彫刻されています。

35 旧芦屋郵便局電話事務室

平成29年(2017)、国登録有形文化財に登録。昭和４年(1929)に建設された電話交換局で、設計は逓信省技師であった上浪朗。鉄筋コンクリート造２階建で、今も新築当時の外観を残しています。

平成16年(2004)にＮＴＴ西日本のお客様窓口が廃止された後、平成17年から、結婚式場・レストランの「芦屋モノリス」として営業しています。

36 阿保天神社の力石

阿保天神社の境内には、江戸時代～大正の頃に農村で男性の力くらべ等に用いられたと推定される力石が６個あります。卵のような形をしており、大きさは60㎝前後です。その内の２個には，石の重さを示す「五十〆」(約187.5kg)と「四十二〆」(約157.5kg)の字が刻まれています。

農村であったころの芦屋市域の民俗行事を伝える数少ない資料として、芦屋市指定文化財に指定されています。

37 旧宮塚町住宅

昭和28年(1953)に建てられた２階建ての元市営住宅で、外壁に石川県小松市産の日華石を用いているのが大きな特徴です。昭和20年代の公営住宅の稀少な現存例として国登録有形文化財に登録されました。市営住宅の用途を終えた後、令和元年(2019)６月からは紅茶専門店や物づくり職人のお店として活用されています。

38 芦屋市立図書館 打出分室

国登録有形文化財「旧松山家住宅松濤館」。この建物は、明治時代に大阪に建設された銀行の建物を松山與兵衛氏が美術品を収蔵するために購入し、昭和５年(1930)に現在の場所に移築したもの。その後、昭和29～62年(1954～1987)までは芦屋市立図書館本館、平成２年(1990)からは図書館打出分室として利用され、現在に至っています。

39 打出公園

打出公園は、芦屋図書館打出分室の南に隣接する公園です。この公園には、かつて小さな動物園がありました。昭和34年(1959)の公園完成と同時に造られ、タイワンザルやリス、クジャクが見られました。なかでもサルは人気者で、芦屋ゆかりの村上春樹さんの小説にも登場しました。

今でも「お猿の檻のある公園」として、市民に親しまれています。

40 金津山古墳の伝説

金津山古墳には、「黄金塚」「金塚」といった別称があり、その昔、阿保親王が打出の村人たちの困窮に備えて黄金一千枚、金瓦一万枚を埋めさせたという伝説があります。

この伝説は、江戸時代の多くの書物等にもたびたび登場しており、江戸時代の村人たちが「朝日さす　入り日輝くこの下に　黄金千枚　瓦万枚」と謡い伝えたといわれています。

41 打出天神社

打出天神社は、旧打出村の氏神さまとして信仰されてきました。江戸時代の「摂津名所図会」にも紹介されています。明治41年(1908)、旧打出村にあった　金毘羅神社・春日神社・若宮神社・南宮神社・厳島神社(金津山)を合祀し、現在に至っています。

本殿・拝殿は、昭和20年(1945)の空襲で焼失、昭和39年(1964)に新社殿が竣工。阪神・淡路大震災後にも修復されました。

42 大楠公戦跡碑

建武３年(1336)２月10日に起こった楠木正成と足利尊氏が戦った打出合戦では、正成が足利直義を撃破し、尊氏らを兵庫に敗走させました。

この碑は、精道村教化団体聯合会が「楠公六百年祭記念事業」の一つとして取り上げ、昭和10年(1935)2月に建立されました。

碑文の「大楠公戦跡」の文字は、本庄繁陸軍大将が書いたものです。

43 阿保山 親王寺

親王寺は承和11年(844)、阿保親王(792～842年)の住居跡に建てられたと伝えられています。長州藩の毛利氏が阿保親王を祖先と考え、親王寺を厚く信仰して寄進をしたため、いろいろな宝物が所蔵されています。また、阿保親王塚古墳から出土した副葬品の銅鏡８面の内４面が親王寺の寺宝となっており、この鏡も芦屋市指定文化財に指定されています。

44 富田砕花 旧居

「兵庫県文化の父」と呼ばれた詩人・富田砕花が、昭和14年から59年(1939～1984)、93歳で逝去するまでこの家に住んでいました。

母屋は昭和20年(1945)の空襲により焼失しましたが、昭和29年(1954)に再建されました。

没後、市が譲り受け、元の姿をとどめる形で復元・整備され、昭和62年(1987)５月から、富田砕花旧居として、公開しています。

45 宮川

宮川の名は、かつて下流付近に金毘羅神社が祀られていたことから名づけられたようです。

源を剱谷に、水道橋付近で東山町の渓谷から流れてくる支流と合流し、一直線に海へと流れています。

かつて、下流の両岸には松林が広がり、海水浴場などもあり名勝地になっていました。

下流に架かる汐凪橋には、今も海鳥が訪れてきて、川の豊かさを教えてくれています。

46 芦屋公園

国道43号から芦屋川の左岸沿いに河口付近まで続くこの公園には、市木・クロマツが420本ほど茂り、白砂青松の昔を偲ばせます。松林の一隅には、京の都で退治された怪物が流れ着いたという伝説の「ぬえ塚」や、平成７年(1995)の阪神・淡路大震災でなくなられた市民の慰霊碑が建てられ、テニスコートの南には、芦屋遊園の昔の面影が残ります。

47 ぬえ塚

およそ800年もの昔、源頼政が京都の御所を騒がす怪物を弓矢で退治した。その遺骸を丸木舟にのせて川に流したところ、芦屋の浜に漂着。村人たちは祟りを恐れて丁寧に塚を作って弔い、この塚のことを「ぬえ塚」と呼ぶようになったという伝説。

江戸時代の地誌等に記されている怪物のぬえ退治の伝説に基づいて、昭和10年代に建てられた石碑。

48 谷崎潤一郎記念館

芦屋を舞台に描いた小説「細雪」で知られている文豪・谷崎潤一郎(1886～1965年)の文学館です。谷崎の生涯と、主な文学作品の紹介、直筆原稿など貴重な資料の展示や谷崎好みの庭園が楽しめます。

谷崎が芦屋に住んだのは、昭和９年(1934)から約２年間で、松子夫人との新婚生活を、宮川町に残る「富田砕花旧居」で過ごしています。

49 芦屋市立美術博物館

平成３年(1991)に、芦屋市制50周年記念事業の１つとして開館しました。美術部門と歴史部門を併せた複合施設です。芦屋から世界に発信した前衛美術グループ「具体」の作品や、芦屋にゆかりの画家の作品を所蔵。また前庭には、川西町に住んだ画家・小出楢重のアトリエが復元されています。

50 虚子記念文学館

平成12年(2000)、高浜虚子の孫で俳人の稲畑汀子氏が平田町に開館。俳人・高浜虚子の資料、俳句作品や著書などのほか、正岡子規や夏目漱石ら文人との交流を示す書簡も所蔵し、虚子と俳句に関する常設展示や企画展示を開催しています。

昭和９年(1934)に、虚子は日本初の本格的な「新歳時記」を編集、季題への見解を明確にし、日本人の基本的な季節感の完成をみました。

51 芦屋川河口

芦屋川の河口付近には、芦屋川が山から運んできた土砂が堆積し、入江となった海への入口に新しい三角州が徐々に広がってきています。そこではたくさんの海鳥があそび、潮干狩りをして楽しむ人々の姿を見ることができるようになってきています。

まるで、昔の芦屋の浜のミニチュア版を見るような光景です。100年後は、どんな景色かな？

52 芦屋キャナルパーク

芦屋浜と南芦屋浜をはさむ水路と両岸の緑地や親水性護岸を、芦屋キャナルパークと呼んでいます。

潮風大橋・浜風大橋とあゆみ橋が架けられており、水路ではカヌーなどのマリンスポーツを楽しんでいる姿を見ることができます。また、朝夕にジョギングをする人、散策する人、家族で憩う姿などが見られ、市民の憩いの場となっています。

53 海浜公園

芦屋浜の東海岸沿いに、兵庫県立海洋体育館（芦屋マリンセンター）やプールなどの施設を含む海浜公園があります。マリンセンターでは、ヨット・カヌー・ボートの貸し出しができ、季節を問わず絶好のコンディションで海洋スポーツが楽しめます。

だれでも利用することができ、指導を受けたり、講習会・研修会に参加することができます。

54 総合公園

総合公園は、潮風大橋を南芦屋浜へ渡ってすぐの西前方にあります。ここには、サッカーやラグビーコート、陸上競技場のほか、野外ステージ、ガーデンなどがあり、ゆたかな緑地に囲まれています。

スポーツをとおして市民交流のほか、花と緑の学習の場、さらには防災拠点の機能もあり、大気汚染対策の緑地としても活用されています。

55 南芦屋浜ウォーターパーク

南芦屋浜ウォーターパークは、南芦屋浜下水処理場に隣接している公園で、滝やせせらぎを人工的に設置しています。水深が浅いので、小さな子どもでも安心して水遊びできますが、すべりやすいので注意が必要です。また、滝やせせらぎの水は高度にろ過された下水処理水を使用していますが、飲んだり顔をつけたりしないように注意しましょうね。

56 潮芦屋ビーチ

その昔、芦屋浜・打出浜は松林に囲まれ、白砂青松の景勝地として有名なところでした。

その浜を埋め立て、新しいまちが誕生しました。そこで、かつての浜辺を再現しようとの市民の願いで造られたのが、潮芦屋ビーチです。ここでは、予約制でバーベキューやビーチバレーを楽しむことができます。また夏の花火大会でも親しまれています。

57 マリーナのあるまち

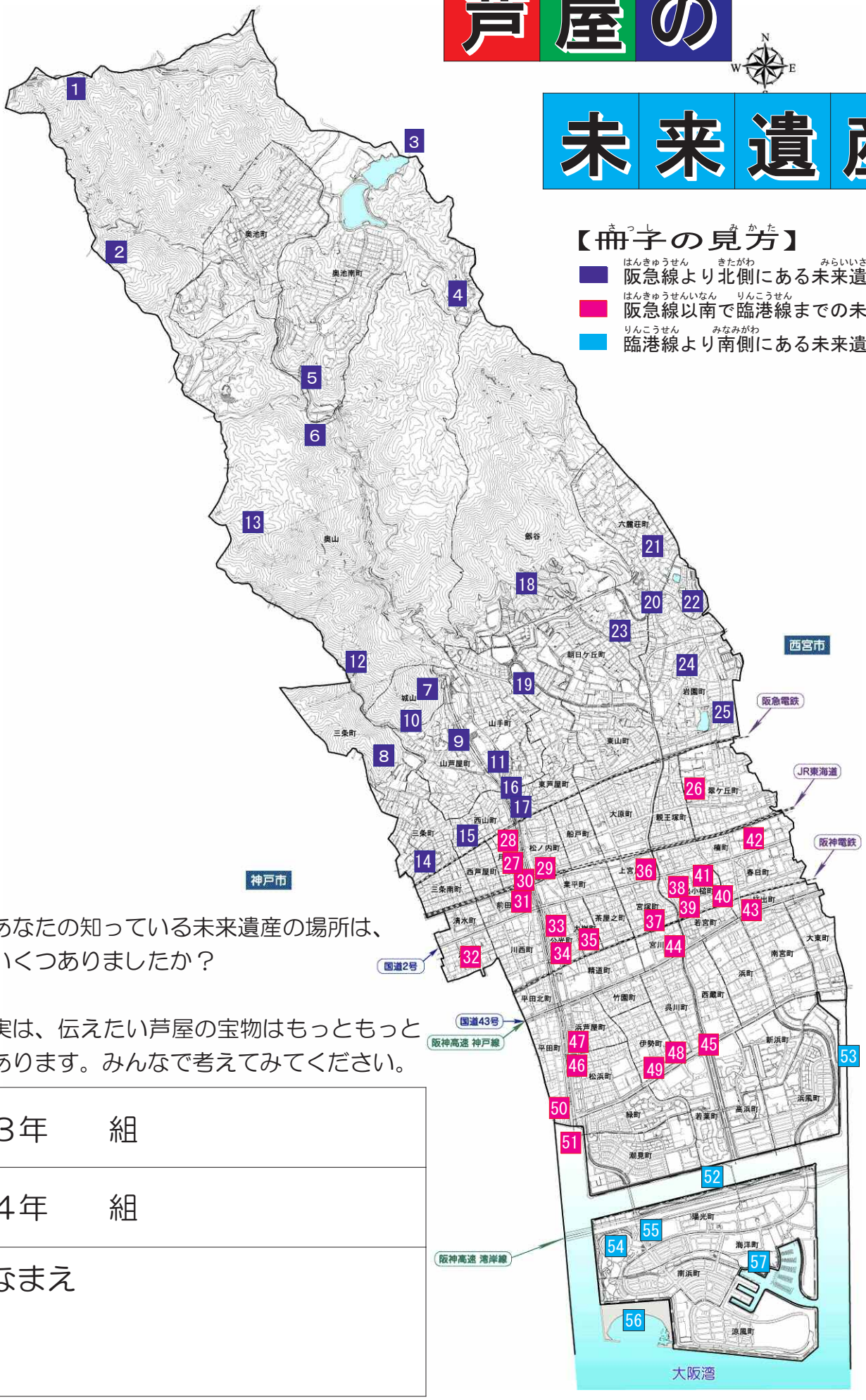
南芦屋浜の東側には、たくさんのヨットやクルーザーが係留されたマリーナがあります。

周辺には、係留施設付き住宅やレストラン、結婚式場、スポーツクラブなどが建ち並んで、ちょっとしたリゾート地のような景色が見られます。

海に開かれた新しい芦屋の顔として、魅力ある未来へのまちづくりが続いていきます。

芦屋の未来遺産

2022 年3 月発行



【冊子の見方】

- 阪急線より北側にある未来遺産
- 阪急線以南で臨港線までの未来遺産
- 臨港線より南側にある未来遺産

◆あなたの知っている未来遺産の場所は、いくつありましたか？

◆実は、伝えたい芦屋の宝物はもっともっとあります。みんなで考えてみてください。

３年　　組
４年　　組
なまえ